第７回ＪＮＴＯ同窓会開催報告

日　時：２０１８年2月２４日（土）１１：３０～１５：００
場　所：慶応大学三田キャンパス南校舎３Ｆ［萬来舎］
参加者：山之内保、塩沢潔、石井昭夫、北出明、高寺奎一郎（初）、田中五十一、末松睦子、井久保敏信、上村仁、谷口せい子、辻のぞみ、日紫喜幸子（年次順・１２名）
ゲスト：ＪＮＴＯ前理事長・間宮忠敏様
次　第：

１．代表幹事挨拶（北出）

・今回はＪＮＴＯ前理事長の間宮忠敏氏にお願いして、理事長在任中民主党政権下の事業仕分け等でＪＮＴＯが苦しい立場にあった頃のお話や、在職中に見てこられたＪＮＴＯのあれこれについてのご感想を含めてお話をして頂きます。当時間宮さんは先頭に立ってＪＮＴＯの存在意義と事業の重要性を監督官庁や各方面にアピールして頂き、平田真幸会員の表現を借りれば「戦国時代の城攻めにあった大名と家来の関係」で戦い、ＪＮＴＯの楯となって頂いた方です。
・今回の出席者は１２名で、高寺さんが初参加です。ＪＮＴＯ同窓会も１月で１周年を迎えました。今後とも仲間を増やす努力をして行きたいと思っています。
・間宮前理事長のお話の前に、恒例により初参加の高寺さんにＪＮＴＯを退職されたあと今日までの近況について簡単に紹介して頂きます。

２．高寺さんの話

・退職後立教大学観光学部と帝京大学経済学部観光学科で講師をしたあと、国際観光の開発と振興のコンサルタントとして、おおむね１年のうち半分は外国にいた。
・最初はマケドニアの観光開発支援をやり、そのあと JICA の委託でパレスチナ、ベトナム、その他途上国のいくつかの国際観光の開発と振興のお手伝いをしてきたが、この辺で止めることにした。道楽として恵比寿でカフェをやっているが、これもそろそろやめ時かもしれないと思っている。

３．間宮さんの話

・２００７年４月から４年半ＪＮＴＯの理事長を務めた。ＪＮＴＯとのご縁は日本貨物航空のＮＹＣ支店勤務時代ロックフェラーセンターの同じフロアに日本人がおられて親しくなったのがＪＮＴＯの方たちだった。所長さんが越村さん、確か所員が永見さん、田口さんだったと思う。
・３５年後はからずもＪＮＴＯの理事長を仰せつかって不思議な縁を感じた。観光の知識はなかったが人事なので拝命した。２００３年に小泉総理のもとで観光立国宣言が出されて同年ビジットジャパン事業が始まり、ＪＮＴＯも独立行政法人国際観光振興機構と改組され、２００８年には観光庁が設立されるというように、この時期はある意味国策としてインバウンドを進める推進体制つくりの揺籃期だった。観光庁も容れ物は作ったが中身をどうするのかこれから検討という状況で、ＪＮＴＯとの役割分担をどうするのか手探りの状態であった。ＪＮＴＯの仕事が分かってもらいにくいので通称を「日本政府観光局」にしたいと申請したら、時の本保観光庁長官がＯＫしてくれた。
・２００９年に民主党政権が誕生し、国土交通大臣になった前原さんの要請で６人の観光関係者の一人としてＪＮＴＯの組織と事業についてご進講した。自分としては諸外国の例や長年培ったＪＮＴＯの知見・人材もあり、役所は基本政策、宣伝実務

はＪＮＴＯ であるべきと考えていたので、観光宣伝事業は観光庁のやることではないからＪＮＴＯがやるべしという趣旨のことを言った。２０１０年にいわゆる事業仕分けが始まり、組織も事業も縮小の方向に向かった。調査統計や刊行物のいくつかの仕事がＪＮＴＯから外されてしまった。

・事務所も移転することになったが、大家の三菱地所では交通会館を建て替え、外国政府観光局や地方の観光事務所を誘致し観光のメッカにしようという企画があるので、その為にはＪＮＴＯは残ってほしいといわれていたのだが、結局四谷に移ることになった。

・観光庁はいっときＪＮＴＯの海外プロモーション部門を役所に移し、政策と宣伝実務を一体的に自らやりたいとのアイディアを持ち、ＪＮＴＯに打診があったが、合同の勉強会を３回位開き、誘致事業はＪＮＴＯ本部・海外事務所・地域と三位一体で行っているというＪＮＴＯ業務の実態をより理解してもらうことに務め、役所が直接担当するのはなじまないとの趣旨を展開した結果、此のアイディアは取り下げられた。

・観光行政は難しい。ＪＮＴＯも専門性を更に磨き、独立性・主体性をより高めてスキのない組織になり、観光庁とともにインバウンドのセンターラインの一翼を担って欲しいと思う。

全くの余談だが、人間の本性を表すホモサピエンス、ホモルーデンス、ホモエコノミクスなどといった言葉があるが、観光ももはや人間の本性とも言えるのでホモツーリスムスみたいな言葉を造語して観光の重要性をアピールしたいと思ったが、機会がなかったのは心残り。

＜関連質疑で話し合われた内容＞ 観光行政機関と観光宣伝機関の役割分担のあるべき論、世界各国の状況。また、情報ツールがこれだけ発展してきた時代の JNTO の役割は何か、観光はその消費構造のなかで政府（公的機関）が不可欠の存在として機能する珍しい分野である（WTO）、全体を公平に代表し正しい情報提供行う役割は必要、現在の JNTO の事業や職員教育においてＯＢにできることはないか、など。

４．自由討論

JNTO が特殊法人となった最初期の大卒職員が川井さんや山之内さん。戦前の客船時代の経験はあまり役に立たず、あらゆる面で模索しながら仕事をしてきた。みんなＯＢになったので、それらの記憶と記録を残しておきたいという趣旨で毎回意見交換している。

１）調査・統計について

・**空港調査：**訪問地調査、消費額調査など数種の訪日外客実態調査をやり、調査方法からサンプルの収集まで知恵をしぼった。統計専門家の講義も受けて理論武装もした。調査表の作成、調査員の調達、サンプルの取り方、質問の仕方など苦心の体験などが紹介された（高寺・谷口・辻）。

・**市場概要の取りまとめ**：1986 年版の「外国旅行市場概要」が最初の試みだった。事務所ごとに市場概要を共通項目に沿って取りまとめろという要請が本部から来た。引き継いだときまとまった資料がなかったので一生懸命にやった（石井）。事務所ごとの市場データがまとめられ蓄積されて「JNTO 訪日旅行誘致ハンドブック」が刊行されるようになった。これの評価は高い（上村）。

２）日本人海外旅行者対策の業務について

・１階事務所時代の PAR と GVA に勤務した。PAR では日本人海外旅行者が激増した時代で、パリ市観光案内所から言葉のわからぬ日本人が来ているが電話で通訳して

くれと頼まれることが相次いだ（→トラベルフォン）。GVA では列車内で睡眠薬強盗に遭ったり、置き引きにあったりという日本人の駆け込みが結構あった。目抜き通りの事務所に「日本政府観光事務所」という看板を掛けておいたからだった（石井）。

・「安全で楽しい旅のために」という小冊子をスイス、イタリア、ギリシャの３カ国分作らされた。苦労が多かったけど面白かった（石井）。

・日本人旅行者対策業務については参加者の中では苦労したという人がいなかった。丸木さんが健在なので取材することとしたい。

３）書いてください

・皆さんの発言を録音して整理して公表したいと考えているけど、思うように進まないので、個人的な思い出話や活動の記録などを文章で提供してほしい。何人かの人からすでに頂いている（石井）。

・公表の場としてホームページを立ち上げることも考えているが、独自につくるとお金がかかるので、皆さんと相談の上、当面石井のホームページの中の別枠として出してみることも考えたい。（石井）

４．次回の会合

日　時：２０１８年4月２８日（土）　１１：３０～１５：００

場　所：慶応大学三田キャンパス南校舎３Ｆ［萬来舎］

文責：石井昭夫記録担当幹事